

## 入選

### わたしにできる小さなしんせつ

山形県 楯山小学校

2年 石川由依

わたしのお母さんは、しんぞうのびょう気です。だけど、おそうじもせんたくも、わたしたちのごはんのよういもなんでもします。でも、たくさんあるいたり、おもいにもつをもったりすると、しんぞうがドキドキしてくるしくなってしまう。なので、ハートとバツのしるしの「ヘルプマーク」をかばんにつけています。

わたしは、お母さんがしんばいなので、大きなお店にかいものに行くときは車いすをおします。びょういんに行くときは、にもつをもって手つだいます。

このまえ、お母さんのびょういんに行ったときの話です。びょういんには、お母さんとおなじヘルプマークをつけた人がたくさんいました。ほかにも、つえをついている人、さんそをつけた人、とてもたくさんの方がいました。まちあいしつもこんでいて、すわるところがありませんでした。すこしまつたら、長いいすがあきました。わたしと妹とお母さんと3人ですわりました。そのあとすぐに、知らないおじいさんとおばあさんが来て、わたしたちを見ました。

「すわるところがないわ。わたしは立ってまってるから。先におじいさんすわって。」

と、おばあさんが言いました。おじいさんが、わたしたちのとなりにすわりました。おばあさんがかわいそうだと思いましたが、わたしのお母さんはびょう気だし、妹もいたのでどうしたらいいかわかりませんでした。

すぐにお母さんが気づいて、わたしと妹をぎゅーっとおしました。すると、一人分のせきがあきました。

「よかったら、すわってください。」とお母さんが言いました。

「ありがとう。せっかくだからすわらせてもらうわ。」

と、言っておばあさんはうれしそうにすわってくれました。4人よりの長いいすが、わたしと妹とお母さんとおじいさんとおばあさんの5人でぎゅうぎゅうになりました。だけど、わたしもみんなも、いやな気もちではありませんでした。

わたしはずかしくて、「どうぞ」と声をかけられなかったけれど、お母さんはじぶんがびょう気なのにすぐに「どうぞ」が言えて、すてきだなと思いました。わたしもお母さんにだけでなく、こまっている人、知らない人にもゆう気をだしてじぶんから「どうぞ」とやさしく声をかけられるようになりたいなと思いました。

きっと小さいわたしでも、お母さんやいろんな人のやくに立てることはあると思うので、見つけていきたいです。